

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和6年度第8回）議事概要
日 時：令和6年11月29日（金）10：30～11：30
場 所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用
出席者：中釜斉理事長、大島正伸理事、平沼直人理事、山内英子理事
本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、瀬戸中央病院長、土井東病院長

I. 前回（令和6年度第7回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 前回議事録署名人を山内理事と近藤監事に依頼。

II. 審議事項

1. 全国がん登録システムの不具合発生事案について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 特に最後の部分が重要である。本事案はがん登録センターで起きたことであるが、がんセンター全体の問題として全職員、特に執行役員メンバーには認識いただきたい。
- ・ 業者はシステムそのものの専門家であった一方、全国がん登録の業務自体の知識や情報共有がもっと必要であった。また、工程に余裕がなかったことが特徴的である。本件は国からの委託事業であり、クライアントが国ということで余裕がなくても言い出しにくいという状況があったことが分かった。監査では、内部統制の無効化という言葉がある。工程に余裕がないを感じながら、諸般の情勢で言い出せない状況を内部統制の無効化リスクであると監査では認識している。人が関わることであるため、心の持ち方が大きなミスにつながる。このような点を今後の教訓としていただきたい。
- 非常に重要な指摘である。本報告書を踏まえて、センターとしてより良い体制、内部統制の仕組みを作っていく。

III. 報告事項

1. 2024年度モニタリング結果について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ センターでは研究管理部門が所管で行っていると思う。財源別（AMEDや厚生労働科学研究費）に偏ることが無いように配慮いただいている。さらに特定の研究者に偏ることがないように新しい工夫もしていただいております。大変よく考えている。参考になった。また、適正経理室会議を開き、研究不正に関し横断的な組織でPDCAを回していただいている（研究所長がヘッド）。この組織はNCの中でもユニークな組織であり、よく機能している。これからも引き続きお願いしたい。
- 引き続きより適正に執行できるようにセンターとしても努めていく。

2. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 研究セキュリティインテグリティについては、アジア諸国との関係が重要になってくる。共同研究を推進しなければいけない一方で安全保障も重要であり、センターがどのようにバランスをとって進めていくのかは、他のがん研究施設の参考になると思われる。政府としての基本的な姿勢があり、それに沿ってセンターが進めていくのか。
- 現時点で把握している事としては、内閣府で行われた研究セキュリティインテグリティに関する検討がある。ここでの方針としては、国立研究開発法人で具体的な対応策を決

めていくという形になっている。センターでは、外国人研究者の経済安全保障上の管理を受け入れ部門が行うという手続きを取っている。先日、外国人研究者との共同研究に関する他大学の報道があったが、センターとしては、研究成果の公表や解析状況の共有などについても研究支援センターと検討を進めている状況である。

- 対応が難しい問題もあるが、国際協力無くして研究の発展は難しい。今後も対応をお願いしたい。
- センターとしても国研協の状況を考慮しながら慎重に対応していきたい。

3. 広報実績等

資料に沿って報告された。

4. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

5. 10月分医業件数等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ マイナ保険証の利用率について、目標値との乖離がある。引き続き強化に努める。